

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ選定プログラム “留学生大学院教育の実質化による国際貢献”について

大学院医歯学総合研究科・口腔生命科学専攻

(歯科矯正学分野) 齋藤 功

(口腔解剖学分野) 前田 健康

(口腔生理学分野) 山田 好秋

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ（行動計画）は、文部科学省が行っている国公立大学を通じた大学教育改革支援プログラムの一つで、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的研究者養成に関する取り組みに対し重点的な支援を行うものとして平成17年度より公募が開始されました。

新潟大学大学院医歯学総合研究科・口腔生命科学専攻では、アジアの留学生を対象として大学院教育を実質化させ、国際社会に対して日本が果たすべき役割の一端を担おうとの趣旨から、平成17年度に「国際口腔生命科学コース（取組代表者：山田好秋研究科長）」の設置を決め、本コースを基盤として「魅力ある大学院教育」イニシアティブに申請しました。その結果、申請したプログラム「留学生大学院教育の実質化による国際貢献—留学生のための実効性を高めた大学院教育—」は、平成17年10月に「平成17年度・魅力ある大学院教育」イニシアティブとしての採択が決まり、このコースへの留学生受け入れ準備を始め、平成18年4月にこのコースで履修する初めての留学生が入学しました。

採択については、平成17年10月30日付けの新潟日報でも紹介されましたが、平成17年度における医療系分野での採択状況は、国公立大学からの70件の応募のうち19件が採択され、歯学の分野では新潟大学と九州大学の2校のみの採択でした。

本稿では、国際口腔生命科学コース設置の背景

と目的、コースの特色および進捗状況などについてその概要を報告いたします。

1. コース設置の背景と目的

大学院医歯学総合研究科・口腔生命科学専攻では、大学院歯学研究科の時代より数多くの留学生を受け入れ、現代社会が抱える超高齢化における健康ニーズに応えられる創造性豊かな研究者の養成に努めてきました。実際、平成12年～16年度までの留学生受け入れ状況は、アジアからの留学生を中心に、大学院正規生28名、非正規生9名で、そのうち国費（日本からの奨学金を獲得）留学生25名、私費留学生12名となっていますが、私費留学生にとって、4年間日本で履修するにあたっての経済的負担はきわめて大きいものでありました。また、アジア地域各国における口腔疾患の多さと劣悪な歯科医学教育研究環境、新潟大学で学位を取得した留学生が帰国後その知識・技能を有効発揮できない事情などに着目すると、留学生に日本の歯科医学を教授すると共に、経済的負担を軽減し、本学で留学生として学位を取得した現地教員にも活躍の場を与えられるようなコースを設置すべきとの考えに至りました。そこで、アジア地域社会への貢献および出身国の実情にあった人材養成を目指し「国際口腔生命科学コース」を設置しました。

2. コースの特色（コース概念図参照）

これまでも交流実績のあるスリランカ・ペラ

デニア大学およびタイ・ナレスアン大学を拠点校と定め、それらの大学と連携・協力し、大学院教育の実質化を図れるよう以下の取組計画を策定しました。

- ・学生は、1年次新潟大学で基礎教育を受けた後出身大学に戻り、2～4年次はe-Learningによる授業で単位を取得する。また、1年次における基礎教育では、学習課題を複数の科目などを通して体系的に履修するシステム「コースワーク」を導入することとしている。
- ・口腔生命科学専攻の教員が短期間拠点校に赴き、研究環境を整備すると共に、指導にあたる拠点校教員の再教育を実施し、国際口腔生命科学コース履修中の学生の研究指導にあたる。
- ・拠点校で指導にあたる教育スタッフが最新の研究に触れることができるよう、拠点校の教員を短期間新潟大学に招き、口腔生命科学専攻に在籍する大学院生と共同研究させる。
- ・修了要件は、既存の一般コースと同様に必要単位数を修得後、博士論文を提出する。論文審査

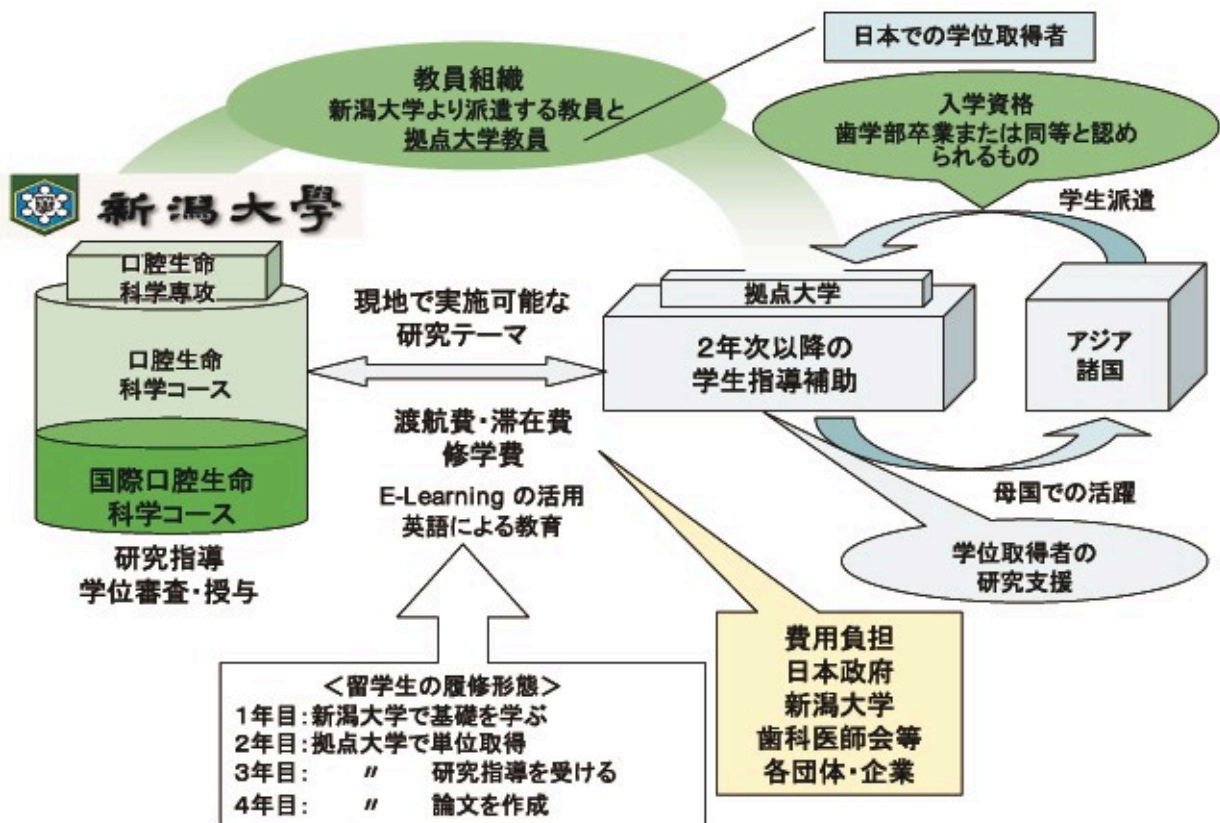
は、拠点校での予備審査後、新潟大学教員と教育担当補助教員とで構成される審査委員会で審査し合否を判定する。合格後、現地において新潟大学学長または医歯学総合研究科長または口腔生命科学専攻科長が学位を授与する。

3. プログラム採択後の進捗状況

- (1) スリランカ・ペラデニア大学およびタイ・ナレスアン大学での現地調査を行いました(写真1、2)。具体的調査内容は、教育プログラム推進協議、国際口腔生命科学コースの概要説明、実施計画協議、実施協定内容の協議、拠点校の設備などの状況(ハード面)、拠点校の教育研究の状況(ソフト面)教育研究組織の調査、口腔疾患に関する教育研究および診療についての状況調査などでした。

また、スリランカ・ペラデニア大学とは「国際口腔生命科学コース」に関する学部間交流協定を締結しました(写真3)。

- (2) 米国西海岸にある3大学(UCSF、UCLA、



国際口腔生命科学コース概念図

USC) を訪問し (写真 4)、各大学における大学院プログラムの概要、特に、コースワークあるいはコースワーキングの実施内容、学位審査システムおよびプログラムの外部評価システムなどについて、それぞれの大学の大学院教育プログラム担当責任者と意見交換を行い、本コースのカリキュラム策定に当たっての参考としました。

- (3) 学生募集要項を作成、公開したところ、ペラデニア大学から 1 名の入学希望者があったため、新潟大学教員 2 名が現地へ赴き、履歴書、成績証明書の確認後、口頭試問による語学力ならびに修学への意欲などについて試験を行いました。試験の結果、履修するに足る能力を有す

ると判断されたことから合格と判定し、平成 18 年 4 月より口腔解剖学分野 (指導: 前田健康教授) において新潟大学での履修を開始しました (写真 5)。

- (4) 大学院入学料および授業料 (4 年間) については、新潟大学が免除措置することとなりましたが、渡航費、1 年間の日本における滞在費および修学に要する経費などの負担は依然として大きなことから、新潟大学歯学部同窓会、研究科歯学系教授会構成員、新潟県および三重県歯科医師会、ならびに企業 4 社 ((株)モリタ、(株)ジーシー、(株)栗山米菓、(株)亀田製菓) からの寄附により支援策を講じることであります。



写真 1 スリランカ・ペラデニア大学の研究施設を視察 (平成 17 年 10 月: 山田学部長、宮崎副病院長)



写真 2 タイ・ナレスアン大学における国際口腔生命科学コース設置に関わる交渉 (平成 17 年 12 月: 前田副学部長、魚島教授、林教授)



写真 3 新潟大学とスリランカペラデニア大学との間で締結された国際口腔生命科学コースに関する協定書



写真 4 米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) では、Dr. Marshall (大学院教育プログラム主任)、Dr. Damsky (教育担当学部長) ならびに Dr. Vargervik (顎顔面先天異常分野教授: 写真右端) らと、大学院のコースおよび研究内容の評価システムなどについて意見交換 (平成 18 年 1 月: 齋藤、藤井講師)

(5) 大学教育改革の各種支援プログラムに選定された取組の情報提供を目的として、平成18年11月12日～13日にパシフィコ横浜において開催された文部科学省主催の「大学教育改革プログラ

ム合同フォーラム」で、本プログラムの取組状況についてポスター発表（写真6）およびパンフレット（写真7）を配布し情報提供ならびに他大学との情報交換を行いました。当日は、17、



写真5 平成18年4月から口腔解剖学分野で研究に取り組むペラデニア大学からの留学生ナンダセナさん



写真6 「大学教育改革プログラム合同フォーラム」でのポスター発表(平成18年11月 於：パシフィコ横浜)



写真8 スリランカ・ペラデニア大学での二回目の現地調査時において、ペラデニア大学歯学部長（写真左端）とともに副学長（写真中央）へ進捗状況を報告(平成18年12月：宮崎副病院長、前田副学部長、齋藤)



写真7 「大学教育改革プログラム合同フォーラム」で配布したパンフレット



写真9 ペラデニア大学歯学部教員会議におけるコース立ち上げから現在までの経過報告、2年次以降の教育プログラムおよび来年度以降の志願者についての意見交換（平成18年12月：宮崎副病院長、前田副学部長、齋藤）

18年度に選定された、医療系、理工系、人社系のプログラム合わせて75件についてのポスター発表があり、プログラム遂行にあたって苦慮している点あるいは今後の方向性などについて種々の大学と意見交換を行いました。

- (6) 平成18年12月8日～13日の日程で再度スリランカ・ペラデニア大学に赴き、現地教員会議において、日本からの支援による研究設備、器具などの整備進展状況、1年次として新潟大学で履修中の留学生の研究進捗状況ならびに2年時以降拠点校における教育プログラムの立案と指導方法についての確認と意見交換を行いました（写真8、9）。また、来年度以降の本コースでの学位取得希望者についても意見交換を行い、臨床系分野に所属する教員の何名かが本コースでの履修を希望しており、若手教員を中心とした選考を行っていききたい旨の報告がありました。今後は、志願者が決定次第、資格確認を行った上で、来年9月までに入学試験を行う予定です。
- (7) 平成18年12月16日～21日の日程で、ペラデニア大学から歯学部長をはじめ教員3名が来学し、現在本学にて履修中である留学生とこれまでの研究内容ならびにその進捗状況について指導教員を交えて懇談しました。懇談では、離日までの学会発表の予定および2年次以降、拠点大学にて研究を進めていく上で必要な装置、器具および試薬などについて確認し、不足しているものについての購入計画を取り決め、購入時

期、運搬方法などについて検討しました。

以上、国際口腔生命科学コースの立ち上げから現在に至るまでの取組状況について概説しました。文部科学省からの支援は平成18年度で終了しますので、今後は新潟大学当局からの支援を得ながら、タイ・ナレスアン大学とのコースに関わる協定の締結をはじめ、拠点校の実情を踏まえた実のある大学院教育を推進させていくことが必要です。しかし、タイの国立大学は、9月におけるクーデターの後、政府の全面的支援を受ける形ではなくそれぞれの大学が独自の方針を打ち出して運営していくよう勧告されているため、タイ・ナレスアン大学とは、ナレスアン大学の全学的な方向性が定まるまで本コースの短期的推進がやや難しい状況にあると考えられます。いずれにしても、国際口腔生命科学コースは立ち上がったばかりで、コースを進めていくにあたっては、先方の国情からも影響を受ける可能性が高いことから暫くは試行錯誤が続くことと思います。今後とも、本コースの趣旨をご理解いただき、研究科あるいは歯学部所属教員・職員各位のご理解、ご支援をよろしく願いいたします。

なお、関連ホームページ(URL：<http://www.dent.niigata-u.ac.jp/> 留学生大学院教育の実質化による国際貢献「魅力ある大学院教育」イニシアティブ) もご覧いただければ幸いです。

(平成18年12月23日・記)